# 職務経歴書

2023 年 11 月 15 日現在
氏名：ワーク太郎

**■職務経歴概要**

博士課程を修了後、株式会社 AAAAAAA に入社し、2 年後、株式会社 BBBBBBB へ転籍となる。株式会社 AAAAAAA 入社から 4 年程度は大型パウチリチウムイオン電池に関する研究・開発に携わりました。それ以降から現在までは角形高容量リチウムイオン電池の研究・開発に携わって来ました。
一貫して、リチウムイオン電池に関することに携わり、これまでに材料開発、セル設計、量産工程のプロセスと一連の流れを経験してきました。入社から材料開発に約 7 年携わり、主に設計に合わせた材料の使いこなしを担当し、負極材料と電解液の組み合わせ、及び電池設計に入り込んだ材料開発を行ってきました。また、直近では量産立ち上げに向けた工程のプロセス部分を担当し、製造移管へ向けた業務を行っております。

**■得意とする経験・分野・スキル**

・負極材における材料開発
・材料開発から量産までの一貫した開発経験
・安全性試験

**■会社履歴**

| 期間 | 会社名 |
|---|---|
| 20XX 年 XX 月～現在 | 株式会社 BBBBBBB |
| 20XX 年 XX 月～20XX 年 XX 月 | 株式会社 AAAAAAA |

**■職務経歴詳細**

**株式会社 BBBBBBB　　20XX 年 XX 月～現在**

事業内容：電子部品全般、総合家電 など
従業員数：●名
資本金：●万円

| 期間 | 業務内容 | 職位 |
|---|---|---|
| 20XX 年 XX 月<br>～<br>現在 | 【所属】エナジー事業部 BB 推進室（現在は廃止）<br>【メンバー数】20 名<br><br>【担当業務：車載向け高容量角形電池の負極材料開発】<br>2015 年 9 月～2019 年 3 月：主担当（メンバー4 人）<br>・負極材料ペースト化、塗工方法の最適化<br>・新規負極材料導入に向けた部材検討<br>【実績・成果】<br>・Si 系混合負極の耐久性を新規材料及び極板製法で 5%以上改善<br>・負極材料開発での事業部内表彰 | |

株式会社 AAAAAAA　　20XX 年 XX 月～20XX 年 XX 月

事業内容：リチウムイオン電池、太陽光発電、総合家電 など

従業員数：●名

資本金：●万円

| 期間 | 業務内容 | 職位 |
|---|---|---|
| 20XX 年 XX 月<br>～<br>20XX 年 XX 月 | 【所属】エナジー事業部 環境用電池開発チーム（現在は廃止）<br>【メンバー数】5 名<br><br>【担当業務例①：大型パウチ電池開発におけるセパレータ安価材検討】<br>2012 年 8 月～2013 年 1 月：主担当（メンバー2 人）<br>・事業化へ向けた試作電池の作製、評価<br>【実績・成果】<br>・新規セパレータを導入することで、想定コストを 3%削減 | |
| 20XX 年 XX 月<br>～<br>20XX 年 XX 月 | 【担当業務例②：大型パウチ電池での負極無機材料開発】<br>2013 年 2 月～2014 年 9 月：主担当（メンバー2 人）<br>・社内新規材料導入に向けた負極無機金属系材料の導入検討<br>・材料メーカーとの交渉及びセル設計への落とし込み<br>【実績・成果】<br>・事業化へ向けゼロベースで検討し、事業案件として別部隊へ移管 | |
| 20XX 年 XX 月<br>～<br>20XX 年 XX 月 | 【担当業務例③：大型パウチ電池の負極高容量材料開発】<br>2014 年 10 月～2015 年 8 月：主担当（単独）<br>・Si 系材料を用いた負極材料開発<br>【実績・成果】<br>・大型パウチ系への Si 系混合負極材料の導入 | |

■PC スキル/テクニカルスキル

・TOEIC　xxx 点（20xx 年 xx 月取得）

・Word、Excel

■自己 PR

リチウムイオン電池に関する知識を豊富に習得しています

学生の頃からリチウムイオン電池に関与し、セラミックス系全個体電池から現状の車載用電池開発についての知見を多く持っております。目論見を持ち、実験を行うことで想定通りの結果を見出す力を備え、特に基礎研究分野に関して適性を発揮する事が出来ると考えております。

実験データの分析、解析

多くの実験データに対して、マクロを利用した短期間で効率的なスクリーニングを実施し、原因究明などを行う事が出来ると考えています。一つ一つのデータを紳士に受け止め、事実を客観的に判断するように努めています。一度の提案だけでなく柔軟な提案を粘り強く行うこと、社内を巻き込んだ提案ができることが営業における強みであると考えおります。

**知的好奇心**

一つの結果に対して、なぜそうなるのか根本部分について考えます。そのため、どんな分野においてもまず根本を理解することに努めています。分野問わず、必要な知識であれば貪欲に吸収することを心がけています。

是非、面接の機会をいただければと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

以上